

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大門小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 ＜指導上の課題＞個に応じた指導を充実させていく必要がある。確実に理解させるための反復練習が足りない。	⇒ 誤答しやすい例を出し理解を深める。【毎時間】 アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しい計算方法や計算順序を確認する。【毎時間】 課題が終わった児童には、ドリルパーク等に取り組ませる。【各単元】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと・聞くこと」 算数「数と計算」 ＜指導上の課題＞ 個人差があり、個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分でない。	⇒ 授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付ける。【各単元】課題を全体でしっかり共有し、解決のために必要な資料や文など選択することに自力解決を促しながら、個別にも支援していく。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の中で学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題で課題が見られた。通常の漢字テストは、できているので、「言葉の特徴や使い方」に関することが不十分であると考えられる。算数の「図形」の中で台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題に課題が見られた。R7全国学力・学習調査の児童質問「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後とも児童主体の個別最適な学びを進められるように教職員の研修を積んでいく。	
思考・判断・表現	国語では、「読むこと」の中で、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問題に課題が見られた。図表やデータの読み取りが不十分であると考えられる。算数では「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。R7全国学力・学習調査の児童質問「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後とも、授業の中で、課題を立て情報を集め、発表する活動を意識していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	誤答しやすい例を出し理解を深めることができた。アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しい計算方法や計算順序を確認することができた。課題が終わった児童には、ドリルパーク等に取り組ませることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付けることができた。課題を全体でしっかり共有し、解決のために必要な資料や文など選択することに自力解決を促すことができた。しかしながら、個別にも支援していくことがこれからの加太である	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)